

事後評価報告書

(ベルモント・フォーラム CRA「持続可能な都市化に向けた国際イニシアチブ: 食料-水-エネルギーのネクサス」)

1. 研究課題名: 「可動型ネクサス: デザイン先導型都市食料・水・エネルギー管理のイノベーション (M-NEX)」

2. 研究代表者名:

日本側: (慶應義塾大学) (政策・メディア研究科) (教授) (巖網林)

相手側1: (Delft University of Technology) (Faculty of Architecture) (Professor) (Andy van de Dobbelsteen)

相手側2: (Queens University Belfast) (Professor) (Greg Keeffe)

相手側3: (University of Michigan) (Taubman College of Architecture and Urban Planning) (Professor) (Geoffrey Thün)

相手側4: (Qatar University) (Center for Sustainable Development) (Assistant Professor) (Sami Sayadi)

相手側5: (University of Technology Sydney) (Professor) (Rob Roggema)

3. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

本プロジェクトでは、参加する各国のチームメンバーが国際デザインワークショップに参加しながら、相互に知見を共有し体系化するアプローチが採用されている。これは研究者同士の共創を通じた知の創造プロセスであり評価できる。また、「都市 FEW(食料・エネルギー・水) デザインの方法」「定量評価のツール(FEWprint)の開発」「リビングラボによる参加」の3つのコンポーネントからデザイン支援プラットフォームを構成し、その成果がウェブサイトを通じて公開されている。ウェブサイトにおいては、FEWprintを把握するためのプログラム(FEWprint ツール)が提供されているなど、研究成果を広く社会に還元・共有する仕組みが作られており、FEW ネクサスを考えるための実用性のあるプログラムとなっている点が評価できる。

一方で、当初計画にあった「6つの都市地域で構築したリビングラボによる世界のリビングラボとのネットワーク参画を通じた M-NEX の共有」に鑑みて、研究成果の国際ネットワークにおける共有がどの程度達成されたかを明確にしていきたい。

(2) 交流活動の評価について

若手研究者による国際チームが結成され、これら若手メンバーによる交流が研究プロジェクト全体の駆動力となって国際研究が進み、結果として日本と海外との双方向の国際交流が積極的に実施さ

れた点は評価できる。本プロジェクトを通じて2名が学位を取得しており、若手研究者の育成という観点からも評価できる。また、日本チームを含む国際チームでの共著論文や学術書が作成されたことや、FEWprint を国際研究チームの6カ国に適用した比較研究が実施され、研究者の相互交流も積極的に実施されていることから、国際研究交流という観点からも成果が認められる。コロナ禍や他国の研究者の異動などといった複数の障壁に直面しつつも、プロジェクト遂行の工夫がなされており、全般にわたって、当初計画に即した研究活動が実行されたことは評価できる。

十分な成果が得られていると考えるが、今後、FEWprint ツールの日本語版の提供や、日本語による解説記事の執筆などを進めることで、研究成果の国内還元にも努めていただきたい。

(3)その他

当初計画に示されている「事業終了後も M-NEX が持続的に運営できる仕組みの構築」という観点は重要であり、持続可能な運営の「仕組み」づくりについても、今後検討いただきたい。